

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572214054
法人名	有限会社 せきれい
事業所名	グループホームせきれい苑
所在地	秋田県山本郡三種町鯉川108-4 (電話) 0185-72-2720
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年12月9日

【情報提供票より】(21年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	3 人
常勤換算	8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ	円
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2		7 名	
要介護3	4 名	要介護4		3 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 81 歳	最低 69 歳		最高 92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿渡内科医院、湖東総合病院、能代歯科医療会
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関前には立派な桜並木があり、ベンチが配置され、春には地域住民と花見を行ったり、外気浴を楽しむには快適な環境となっている。ホームの廊下は広く、各居室前には絵とプレートが飾られている。開設当初からの職員が多く、馴染みの関係の中で調理や洗濯、貼り絵や裁縫等の支援が行われ、理念どおり笑顔を大切にしたいその人らしい生活の継続を実践している。また、職員は各種研修に意欲的に参加し、自己の介護観を形成しながら質の高いケアの提供に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を踏まえ、全職員で話し合いながら、広報の発行や研修の充実に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価に取り組み、自分たちのケア内容を点検し、利用者が自分らしく生き生きと心地良く生活が送られるように努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族の代表や自治会役員に出席してもらい、日常生活状況を報告しながら課題について討議し、事業運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今年度から定期的に便りを送付し、暮らしぶりがわかるよう報告している。家族の訪問時には意見や要望を聞き出し、介護計画に反映させている。また、出納報告も毎月行うなど適切に管理している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム玄関前にある桜の花見に地域住民を招待したり、地域の行事に利用者が参加したりしている。また、老人会のボランティアが訪問するなどの交流がある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い理念を作り上げ、自由と安らぎ、笑顔を大事にした利用者中心の生活に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ダイルームや休憩室に理念を掲示し、運営者及び管理者、職員は理念を共有したケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの玄関前にある桜の花見に住民を招待したり、地域の老人会のボランティアが訪問したりと交流に努めている。		避難訓練や行事等へ地域住民の多数の参加を呼びかける等交流はできている。更に、ホームへの理解と馴染みの関係を築いていくことが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のミーティング等で、自己評価や外部評価の改善課題に対し、スタッフ全員で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表や自治会役員の参加により状況報告等を行い、事業運営に活かされている。	○	町福祉課または地域包括支援センター職員の参加と定期的な開催により、地域との連携やサービスの質の向上に繋がるよう、積極的に取り組むことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は町担当者に運営状況を伝え、助言を得ているほか、定期的に地域包括支援センターを訪問するなどし、質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の心身状況を伝えたり、出納簿を確認してもらっている。今年度からは、定期的にホームの暮らしぶりがわかる広報も発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞き出したり、玄関付近へ意見箱を設置し、家族の意見が反映されるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員が多く、馴染みの関係が出来ている。また、異動があった場合でも職員間の引き継ぎは十分に行われ、利用者へのダメージが極力少なくなるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より職員の研修参加状況をチェックし、職員の質の向上を目指した計画的な研修になるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内のグループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流に努めている。また、相互訪問等の活動や勉強会によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	住まいが変わることへの不安やストレスを職員は理解しており、本人の生活歴や状況をきちんと受け止め、個々にアプローチしながら穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の大先輩と思い、得意なことを教えてもらったり、話を聞かせてもらうことで日常生活を支援し、自己の介護観も形成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いに関心を持ち、意向を確認しながら本人の側に立った支援に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から要望を聞き出し、職員間での話し合いにより、生活歴や趣味、嗜好を配慮したその人らしい介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録をもとに3ヶ月毎に見直しを行い、モニタリングも実施されている。利用者に変化が生じた場合は家族や職員に意見を出してもらい、随時介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に添った外出支援は日常的に行われている。また、医療機関の往診や訪問看護との連携により24時間対応出来る体制を整える等、柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ歯科医の往診があり、いつでも相談できる体制にある。また、受診時は職員が付き添うなど適切に支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自の重度化した場合における看取り指針があり、職員全体で方針を共有している。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	優しくさりげない言葉かけで誇りやプライバシーに配慮した支援を行っている。契約書等々は事務室にて管理されている。	○	個人台帳が共有スペースで保管されているが、漏洩防止のためにも施錠できる場所への保管が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、思いに沿った一日になるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が個々の能力に応じて、出来る範囲で食事の準備や片付けを行っている。また、職員も一緒に食事を摂ることで自立に向けた食事になるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴支援のための予定表が作成されているが、健康状態や希望を取り入れ、毎日柔軟に入浴支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の習慣や希望を踏まえ、掃除、調理、裁縫、貼り絵等の楽しみごとを作りだし、その人らしい暮らしの継続を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望を考慮し、外気浴や散歩、ドライブ、買い物等外出支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は施錠せず、利用者の見守りに努めている。ホームのそばには踏切があり、夜間は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害マニュアルに沿って避難訓練を実施している。緊急連絡網には地域の消防団長も入っている。	○	以前実施されていた消防署立ち合いの訓練を再開する事が望まれる。また、総2階造りという特徴と消防署が遠いという地理的条件からも近隣住民との連携、協力体制強化が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が独学で勉強したカロリー計算で献立を作成し、栄養バランスや水分量が確保されている。また、摂取状況を記録し、状況によっては形態を変えて支援を行っている。		期間を定め、町の栄養士と連携し、カロリーをチェックしてもらうことにも期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にはベンチを配置し、生活動線となる廊下はゆったりとしている。共有スペースにはソファや畳部屋があり、居場所を確保している。また、各居室内には空気循環機が設置されており、臭いがこもらない配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドア付近には装飾を付けて自分の居室がわかるように配慮されている。また、居室内には使い慣れた物が持ち込まれており、安心して過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。